

2015

かわさき市民  
第九コンサート

2015年12月20日(日)

開場 13:20 開演 14:00

ミュージア川崎シンフォニーホール

合唱 2015かわさき市民第九合唱団

管弦楽 宮前フィルハーモニー交響楽団

ロッシーニ

歌劇「セミラーミデ」序曲


ベートーヴェン

交響曲第九番ニ短調「合唱付」

かわさき市民第九

主催:2015かわさき市民第九実行委員会 川崎市

共催:川崎市教育委員会

協賛:  川崎信用金庫

後援:「音楽のまち・かわさき」推進協議会 公益財団法人川崎市文化財団

音楽のまち  
かわさき 

ジョアキーノ・ロッシーニ  
歌劇「セミラーミデ」序曲

— 休憩 —

ルートヴィッヒ・ファン・ベートーヴェン  
交響曲第九番ニ短調「合唱付」

指揮 今井 治人

ソプラノ 大隅智佳子      アルト 増田 弥生  
テノール 青地 英幸      バリトン 成田 眞

合唱指揮 黒川 和伸  
練習ピアニスト 名倉 扶季

合唱 2015かわさき市民第九合唱団  
管弦楽 宮前フィルハーモニー交響楽団

歓喜に寄せて ~第九番交響曲訳詞~



原詩 フリードリヒ・フォン・シラー「歓喜に寄せて」 訳 大木正純

おお、友よ、このような調べではなく  
もっと快い、歓びに満ちた調べを歌おう

歓喜よ、美しい神の閃光よ  
樂園からの娘よ  
われらは情熱に満ち  
天国に、なんじの聖殿に踏み入ろう  
なんじの神秘的な力は  
引き離されたものを再び結びつけ  
なんじの優しい翼のとどまるところ  
人々はみな兄弟となる

大きな恵みを受けたものは、友の中の友となり  
優しい妻を得たものは、歓喜の声に和せ  
そうだ、この世にたとえ一人でも真の友を持つものも！  
しかしそのことを知らないものは  
泣き悲しみつつこの仲間から去れ

すべてのものは歓喜を  
自然の乳房から飲み、  
善なるものも悪なるものもすべて  
みなバラの咲く道をゆく  
それはわれらに口づけと酒を与え  
死の試練を経た友と与える  
虫けらにも快樂は与えられ  
そして天の使いは、神の前に立つ

楽しく、神の多くの太陽が  
天空の見事な平面を飛ぶように  
走れ、兄弟たちよ、なんじの道を  
英雄が勝利に赴くように、喜ばしく

いく百万の人々よ、互いに抱き合おう！  
この口づけを全世界に与えよう！  
兄弟たちよ！  
星空のかなたには、愛する父が必ず住みたもう

いく百万の人々よ、地にひれ伏すか？  
世界よ、創造の主を認めるか？  
星空のかなたに主を求めよ！  
星のかなたに、主は必ず住みたもう



シラー

1785年、シラーは5月から9月までライプツィヒ(ドイツ)郊外に滞在しました。小さな農家風の家の2階で「歓喜に寄す」は書かれ、のちにベートーヴェンにより「歓喜の歌」になり、歌い継がれています。

# ごあいさつ



「2015かわさき市民第九コンサート」によるこそおいでくださいました。

川崎市の冬の風物詩となっておりますこの演奏会は、市内で活動されている市民オーケストラと、公募により結成された市民合唱団と一緒にベートーヴェン作曲の「交響曲第9番」の演奏を行う、市民の皆様による演奏会として、毎年このミューザ川崎シンフォニーホールで開催しております。今年も合唱団には定員を上回る多くの御応募をいただき、まさに「音楽のまち・かわさき」に深く根付いたコンサートとなっております。

市民合唱団の皆様は、経験者の方も初めての方も共に、8月の「発会式」から毎週、合唱指揮の先生の指導のもと練習を重ね、歌声に磨きをかけてこられたと伺っています。歌詞を暗記することに加えて、ドイツ語での合唱ということもあり御苦労もあったかと思いますが、今日は練習の成果を存分に発揮されることを期待しています。

また、今回管弦楽を担当される宮前フィルハーモニー交響楽団は、「自分の住む街にもオーケストラを」と呼びかけを行って1991年に創設されて以来、年2回の定期演奏会の開催に加え、こども向けにおはなし付きの演奏や楽器に触れることのできる楽器体験などを取り入れた演奏会「音楽のおもちゃ箱」を開催されており、この市民第九コンサートや市民交響楽祭などにも御参加いただくなど、精力的な音楽活動を続けられています。

「かわさき市民第九コンサート」は1989年から実施しておりますが、27回を数える今回も、「音楽のまち・かわさき」のシンボル、ミューザ川崎シンフォニーホールでの開催となります。世界的にも評価の高い音響を誇るホールで、熱意あふれる「歓喜の歌」を存分にお楽しみください。

最後に、コンサートを開催するにあたり御尽力いただいた皆様にあらためて感謝申し上げますとともに、御来場の皆様には良い年末年始を迎えられますよう祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

今日は、27回目を迎えました「2015かわさき市民第九コンサート」にご来場いただき、誠に有難うございます。

この演奏会のオーケストラは、川崎市オーケストラ連盟に所属する「川崎市民交響楽団」「宮前フィルハーモニー交響楽団」「麻生フィルハーモニー管弦楽団」「高津市民交響楽団」の4つの交響楽団が輪番で担当しています。今回は宮前フィルハーモニー交響楽団が演奏いたします。指揮者には今井治人氏、ソリストには大隅智佳子・増田弥生・青地英幸・成田眞の4氏を迎えました。

毎年公募により結成される合唱団には、今年も市内在住在勤の300人ほどの方々から申し込みをいただき、この舞台には280名の合唱団として歌声をお届けいたします。小学生から80代までの幅広い年齢層、第九を初めて歌われる方が60名ほど、ご夫婦、親子、家族総出で参加された方もおられ、家庭的な一面も感じられる合唱団が生まれました。8月28日の発会式より、合唱指導者の黒川和伸先生の熱心な指導のもと、毎週金曜日の20回に及ぶ練習により、素晴らしい合唱団になったと思います。今回初めて合唱団からの発案で、正規の練習前18時より25分間のパート練習を取り入れたことも、合唱団員のつながりをより一層深めたと思っております。

この市民第九コンサートも、音楽のまち・かわさきの年末を飾るにはなくてはならないイベントに成長してまいりました。今日の演奏が、合唱団の歌声が、ご来場の皆様方の心を少しでも温かくすることが出来れば幸いです。それでは、ミューザ川崎シンフォニーホールに広がる「第九」の調べをどうぞお楽しみください。最後になりましたが、「かわさき市民第九コンサート」の開催にご尽力いただきました関係各位の皆様方に厚く御礼申し上げます。有難うございました。



川崎市市長

福田 紀彦



2015かわさき市民第九コンサート実行委員長

田中 実

# 指揮者紹介



## 今井 治人

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。  
在学中より在京オーケストラへのエキストラ出演、  
さらには、倉敷音楽祭管弦楽団に参加するなど  
演奏活動を始めた。コントラバスを小野崎充氏、  
指揮を岡部守弘、黒岩英臣、飯守泰次郎の各氏

に師事した。

1994年、洗足学園音楽大学附属指揮研究所マスターコース修了。  
指揮を秋山和慶、河地良智、増井信貴の各氏に師事し、スコアリーディングを島田玲子氏に師事した。

イタリアのシエナで開かれる、キジアーナ音楽院夏期セミナーに参加、フェルディナント・ライトナー、イリヤ・ムーシンのクラスで研鑽を積んだ。

二期会、東京オペラプロデュース、大田区オペラ協議会等では、若杉弘、飯

守泰次郎、大野和士など日本を代表するオペラ指揮者の公演アシスタントを務め研鑽を積んだ。

現在、首都圏を中心とした各地のオーケストラに招かれ、活発な指揮活動を展開し、その演奏は高い評価を得ている。

また、合唱音楽の分野にも力を注ぎ、東京アカデミー合唱団(音楽監督・秋山和慶)の合唱指揮者を務め、多くの合唱団ですぐれた指導力を発揮している。

さらに、ミュージカル公演の指揮を務めるなど、その活動は幅広い。

現在、佐賀大学文化教育学部教授。

## 指揮者インタビュー

先生にとって第九はどのような曲ですか？

宮前フィルと出会った30歳くらいのとき、これから振りたい曲はありますか？と、ある先生に訊かれたことがあります。ベートーヴェンは八番までは振ったが、まだ経験がない九番は振りたいですとお答えしました。先生は、やりたいと思っていれば必ずできますよ、とお答えくださったことを思い出します。

第九はベートーヴェンの最後のシンフォニーです。九番まで演奏してやっと彼のシンフォニーの全体像が分かるので、あの頃振りたいと思っていたのです。

指揮してみると、それぞれの楽章の性格の違いをあらためて捉えることが出来ました。1楽章は、強い構築性を持って描かれています。2楽章は踊りの音楽、3楽章は美しいカンタービレです。これは、ベートーヴェンがこれまで経験してきたことの総まとめとして、今の自分を描いている感じがします。

どの作曲家も、最後のシンフォニーは最もその作曲家らしいと思います。  
第九では、どのあたりでベートーヴェンのすこさを感じますか？

1楽章は特徴のあるリズムや音程のバックを積み上げながら曲が出来る。それでもって、音のストーリーが出る。

来ている。そして2楽章は舞曲系のもの。こちらは身体的な喜びです。つまり、1楽章は理性的で2楽章は身体的。3楽章のカンタービレは心の喜びを描いたもの。4楽章は人間の持つ三つの別々の感性のようなものが、一つにまとまっていく。シラーの歌詞にある、「人の繋がりに」という意味にもつながる。家族に恵まれなかった彼の、甥との確執や、一緒に暮らせなかった子ども(貴族の女性との間にできたと言われている)への想いという個人的な感情を、作曲家として芸術作品に昇華させたのです。

以前、運命の2楽章から田園の5楽章、第九の3楽章へと続く流れを話されていたと思います。

はい。これらの楽章は、バイオリンに16分音符の流れるような旋律を弾かせています。彼の音楽、特にこの楽章は、どこが主張するわけではなく、いろいろなものがバランスよく聴こえてこないといけません。ベートーヴェンは、空間的な広がりを感じていたので、はないかなと思うのです。

彼は、人と仲良くしたいと思っている優しい人だと思っています。3楽章は、カンタービレのシンプルで作為のない、優しいメモディーでしょう。また、彼の弾くピアノは、貴族のご婦人たちをリラックスさせる力があつたそうです。そういう音楽を奏でられる人なのです。でも、ど

うしてもぶつかつてしまうジレンマを自分のなかに持っていたのではないかな。そのうちに耳も悪くなり、人との関わり方がわからなくなることが重なっていったのではないかと思います。第九の3楽章や、運命の2楽章のような音楽が、ベートーヴェンの本質なのだと思います。

お客様に第九で聴いてほしいところはありますか？

1楽章の動かしがたい格好良さ。それから2楽章の中間部がきれいにできたらいいと思います。とてもリラックスした感じですよ。音楽が流れていけば、その前とのコントラストがついていいますね。3楽章はとにかくきれいに、流れるように。少し細かくなりますが、4楽章は、テノールのソロが男声合唱と歌ったあとに、弦楽器と木管楽器主体で、歓喜の合唱の前に間奏のようなところがあつます。そこが僕は大好きなところです。有名な合唱がくる手前だという期待感もあります。ここが一気にできたら、また合唱が輝くのではないかなと思います。人の声の持つ力強さが胸に迫ってきます。

ミューザ川崎の空間に第九というのは今からワクワクします。あの大きな空間を気持ちよく音で埋められたらと思います。どうぞお楽しみください。

# 出演者紹介



## 大隅智佳子【ソプラノ】

東京藝術大学声楽科首席卒業。同大学院修士・博士後期課程修了、学位(音楽)取得。安宅賞、松田トシ賞、アカンサス音楽賞受賞。首席の榮譽として皇居・桃華楽堂における宮内庁主催御前演奏会に出演、学生代表を務める。

2003年横浜市市民オペラ主催ビゼー作曲「カルメン」ミカエラ役にてオペラ・デビュー後、新国立劇場、東京二期会公演など多くのオペラに主演。近年では「ルイズ」タイトルロール、「妖精」アード役、「マダム・サン＝ジェヌ」カテリーナ役の日本初演、二期会公演「エフゲニー・オネーギン」タチアーナ役、「サロメ」タイトルロールでは歌唱・演技共に高い評価を得た。

アルファノ作曲「シラノ・ド・ベルジュラック」ロクサーヌ、マスネ作曲「エロディサード」サロメなど日本初演オペラ公演にて常に高い評価を得ており2012年11月日生劇場にてライマン作曲「メデア」日本初演(平成24年度文化庁芸術祭・芸術祭賞音楽部門「大賞」受賞作品)に主演。超難関と言われるメデア役に全力で臨んだ演技演奏は多くの人を魅了した。2014年東京二期会「イドメネオ」エレットラ役は圧倒的な存在感を見せ、聴衆に強烈な印象を残した名演は記憶に新しい。

第九や宗教曲などのソリストとしても活動し、N響、日フィル、新日フィルはじめプロ・オーケストラとの共演も重ねている。現在、尚美学園大学専任講師、足利オペラ・リリカ音楽監督、OHSUMI&PRODUCE主催、二期会会員。

ベートーヴェンの第九は日本各地でたくさん演奏されていますが各団体、各オーケストラによって紡ぎだされる何種類もの第九はそれぞれの魅力や感動があります。しかし共通して感じるのはベートーヴェンの才能の素晴らしさと、何よりも第九という作品への演奏者の深い愛情です。何度も演奏している第九ですが、今回はどんな愛を感じられるか、とても楽しみです。輝かしく、感動的な演奏となるよう私も心込めて演奏したいと思います。



## 増田 弥生【アルト】

宮崎県出身。東京藝術大学を松田トシ賞を得て卒業。学部在学中は故・木村宏子氏に師事。ウィーン音大リート・オラトリオ科で研鑽を積み、帰国後東京藝術大学大学院を経て新国立劇場オペラ研修所を修了。その後、文化庁派遣芸術家在外研修員として再度ウィーンに留学。第71回日本音楽コンクール第1位、松下賞受賞。第10回友愛ドイツ歌曲コンクール第1位。'04年新国立劇場「ファルスタッフ」メグ・ページ役に本格的なオペラデビュー。'08年『ワルキューレ』フリッカ役に抜擢され二期会オペラデビュー。小澤征爾音楽塾『こうもり』(カバーキャスト)、サイトウキネンフェスティバル『利口な女ぎつねの物語』、新日本フィルオペラ『薔薇の騎士』など、様々なオペラに出演している。'13年「NHKニューイヤーオペラコンサート」初出演。コンサートでは、「芸大メサイア」アルトソロをはじめ、バッハ、モーツァルト等の宗教曲をレパートリーとしている。第31回国技館5千人の第九アルトソリスト。二期会会員。

かわさき市民第九で歌わせて頂くのは、2007年(指揮・田中一嘉先生)以来、2回目となります事を、大変光栄に思っております。…『第九』というのは、人類にとって本当に特別な音楽だと思います。演奏していても聴



いていても、こんなに全身全霊を捧げられる音楽があるのでしょうか?シラーの歌詞を噛みしめながら、私も精一杯歌わせて頂きます。

## 青地 英幸【テノール】

武蔵野音楽大学声楽科卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。

モーツァルト「ドンジョヴァンニ」「魔笛」「コシ・ファン・トゥッテ」「後宮よりの逃走」、ロッシーニ「オテロ」、チマローザ「秘密の結婚」、グノー「ロメオとジュリエット」、ヴェルディ「王国の一日」「2人のフォスカリ」「椿姫」「リゴレット」、プッチーニ「ラ・ボエーム」、ビゼー「カルメン」、マスカーニ「友人フリッツ」「カヴァレリア ルスティカーナ」、ペルリオーズ「ファウストの劫罰」「ペアトリスとベネディクト」など多くのオペラに出演。また新国立劇場では「おさん」「ホフマン物語」「ばらの騎士」「ムチェンスク郡のマクベス夫人」「ヴォツェック」、小劇場オペラ「友人フリッツ」「セルセ」に出演。その他カヴァー歌手として多数のオペラにかかわる。

主にオペラの舞台を中心に活動し輝かしい声と表現力豊かな音楽性で高い評価を得ている。その他多くのコンサート等にソリストとしても出演。公津の杜男声合唱団ヴォイストレーナー。成城大学合唱部ヴォイストレーナー。

コール・ペガサスヴォイストレーナー。東京室内歌劇場会員。東京オペラ・インスティテュート講師。東京オペラ・プロデュース・メンバー。

この度はかわさき市民第九コンサートで歌わせていただき、ありがとうございます。第九は学生のころから毎年、年末の恒例で合唱を歌っていました。その度ソリストを聴いて、いつかはソロを歌いたいと思ってきました。そして気が付くと、自分がソロを歌う事になってからすでに20年あまり経ちます。1回歌うごとに新たな難しさ楽しさを発見し、また次に向けての目標ができ、歌う意欲が湧いてきます。今回もまた何か新しい発見ができるように、精一杯歌わせていただきます。



## 成田 眞【バリトン】

愛知教育大学を経て、東京藝術大学声楽科卒業。同大学院修了。声楽を、中川牧三、畑中良輔、小野光子、平野忠彦、カルロ・メリチャーニ(イタリア・ミラノ留学中)の各氏に師事。

大野和土指揮/東フィル《オペラ・コンチェルト・シリーズ》、ジョン・ミュンフン指揮/東フィル「イドメネオ」、ロジェストヴェンスキー指揮/読響「イオランタ」、小澤征爾指揮《サイトウ・キネン・フェスティバル松本》《東京のオペラの森》、インバル指揮/都響「千人の交響曲」など、これまでに内外の著名な指揮者や交響楽団との共演の数は枚挙に暇がない。

シドニー・オペラ・ハウス《日豪親善コンサート》「第九」、ウィーン楽友協会ホール/ヴェルディ「レクイエム」、NYカーネギーホール《東日本大震災支援コンサート》モーツァルト「レクイエム」等のバス・ソロとして出演。その存在感のある確かな歌唱は海外においても喝采を浴びた。演奏活動の他、後進の指導、発声講習会講師、コンサート企画、ヴォイス・トレーナーや合唱指導者としても活躍中。現在、日本体育大学非常勤講師、日露音楽家協会会員、二期会会員。

一年の計「第九」。今年は川崎の皆さまとご一緒させていただきます。オーケストラをかき分ける第一声…皆さまの心にはどのように響きますでしょうか。「第九」を歌う時(正しくは歌い出すまで)はいつも、一年間を走馬灯のように巡らせ、感慨に浸ってしまいます。来年も皆さまにとって更に素敵な一年となりますよう、心豊かに歌い上げたいと思います。一期一会。

# 曲目解説



ベートーヴェンの葬儀

## 第九という圧倒的存在

1860年。ベートーヴェンが亡くなって23年経ちました。大作曲家が交響曲第九番という傑作を残して亡くなったあと、作曲家たちのなかにはひとつの論争が起っていました。ベートーヴェンの第九で完成され「交響曲」というジャンルは終わったというワーグナーやリスト。一方、ブラームスはこれまでの交響曲の歴史を汲んだ音楽を作るべきだと主張しました。彼のことを尊敬してやまないのは両者とも変わりませんが、それだけ、ベートーヴェン、そして第九というのは大きな存在だったのです。



曲の構成を練るベートーヴェン

シラーは「歓喜に寄す」のなかで言います。「大きな恵みを受けたものは、友の中の友となり、優しい妻を得たものは、歓喜の声に和せ、そうだ、この世にたとえ一人でも真の友を持つものも！しかしそのことを知らないものは、泣き悲しみつつこの仲間から去れ」

## 第九誕生の背景

第九をつくった時期は、ベートーヴェンの精神に大きな影響のあった時代でした。彼の死からさかのぼって1815年。この年、彼は弟を亡くしています。弟には一人息子がおりました。父を失った甥を、彼は母親から引き離すように引き取りました。裁判まで起こして。

2回の裁判に勝訴し、甥の後見人となって1820年から一緒に暮らし始めます。しかしこのときすでに、聴覚は全くなくなっていました。全聾のベートーヴェンと年頃の甥、二人の同居は必ずしもよいものではありませんでした。徐々にうまくいけなくなり、ついに1826年、甥はピストル自殺を図るのです。一命をとりとめたものの、母親の元へ戻ることとなります。

彼がシラーの詩に出会ったのは1793年。23歳のときでした。そのころから、この詩に作曲をしようと考えていましたが、実際に第九に取りかかったのが1818年。そして完成したのは1823～1824年ですから、家族を得た彼が、その家族を失っていく時期だったのです。



ベートーヴェンのデスマスク

## 50にして天命を知る

第九は完成し、1824年5月に初演を迎えます。ベートーヴェン53歳。人類愛という高潔な精神を歌った第九をこの年で作ったのは、まさに「50にして天命を知る」というかのように感じます。芸術家としての彼が天から与えられた使命を、この曲で全うしているようです。

3年後の1827年3月26日、ベートーヴェンは56年の人生を閉じました。



ロッシーニは、ベートーヴェンと同時期に活躍したオペラ作曲家です。18歳のデビュー作から30歳で作曲した「セミラーミデ」まで、合計にして34作が、ベートーヴェンの交響曲第6番と第9番の間に作曲・初演されています。

1824年、32歳でパリのイタリア座の音楽監督に就任したため、彼がイタリアで作曲した最後の作品が「セミラーミデ」です。パリに渡り、37歳で「ウィリアム・テル」をつくり、作曲家を引退しています。

## オペラ「セミラーミデ」あらすじ

時代は紀元前1200年頃。バビロニアの王国での王位継承争いの話です。

現在の女王セミラーミデは、実は、王であった夫を毒殺し即位していました。夫は亡くなる前に、息子ニーニャを母の元から逃れさせ、息子は行方知れずとなっていました。

次の王に名乗りを上げているのは、セミラーミデと共謀して王を殺したアッスール、インドの王子イドレーン、若い武将アルサーチェ。このアルサーチェにセミラーミデは密かに心を寄せていますが、実は彼こそ、行方知れずとなっていた息子ニーニャなのです。

セミラーミデは全員の前で、後継者は自分の夫となることを告げようと、アルサーチェを指名します。すると、稲妻が光り、かつての王である夫の亡霊が現れます。アルサーチェが王となることと、そして罪ある者の生贄が自分の墓前に捧げられなければならないと予言します。

アルサーチェは祭祀長に、自分が王の息子であり、セミラーミデは母親だと告げられ、母の裏切りを知ることとなります。心を寄せる男と結ばれることを喜ぶセミラーミデに、自分が息子であり、母の罪を知っていることを告げます。父の形見の刀を祭祀長から受け取ったものの、母に手を下すことはできず、母と息子は和解し、アッスールへの復讐へと向かいます。

夫の墓前で最後の決闘となり、暗闇の中アルサーチェは天に任せて剣を振り下ろします。倒れたのはセミラーミデでした。すべては神の思し召しと祭祀長は宣言します。逮捕されるアッスール。母を手にかけて運命を呪うアルサーチェ。新王誕生を讃える合唱が沸き起こります。

## ロッシーニとベートーヴェン

実は第九を出すにあたってベートーヴェンは、ロッシーニの存在感を思い知るようになります。

第九の初演は大成功に終わりました。客席の拍手喝采が全聾であるベートーヴェンの耳には届かず、アルト歌手が客席を向くよう促し、彼は拍手喝采を目にしたという話は有名です。

しかし、初演は大成功したものの、あまり収益が出ず、劇場代や楽譜代などを払って手元にはわずかしかなかった。それをみた周囲の勧めもあって、第九は再演することとなります。初演の失敗を繰り返さないために、再演のプログラムには大きな変更が加えられました。それは、第九の前に、ロッシーニの「タンクレーディ」のアリア「ひどい胸騒ぎ」を入れるというものでした。これは、当時流行していたロッシーニのファンを演奏会に呼び込もうという思惑でした。結果的に、この作戦はうまくはゆきませんでした。当時、巨匠といえるベートーヴェンが意識するほど、当時ロッシーニは一世を風靡した存在だったのでした。第九の初演練習にあたって、独唱歌手たちが、ロッシーニ風の音楽に慣れ親しんでおり、第九の難しさに根を上げたといえます。

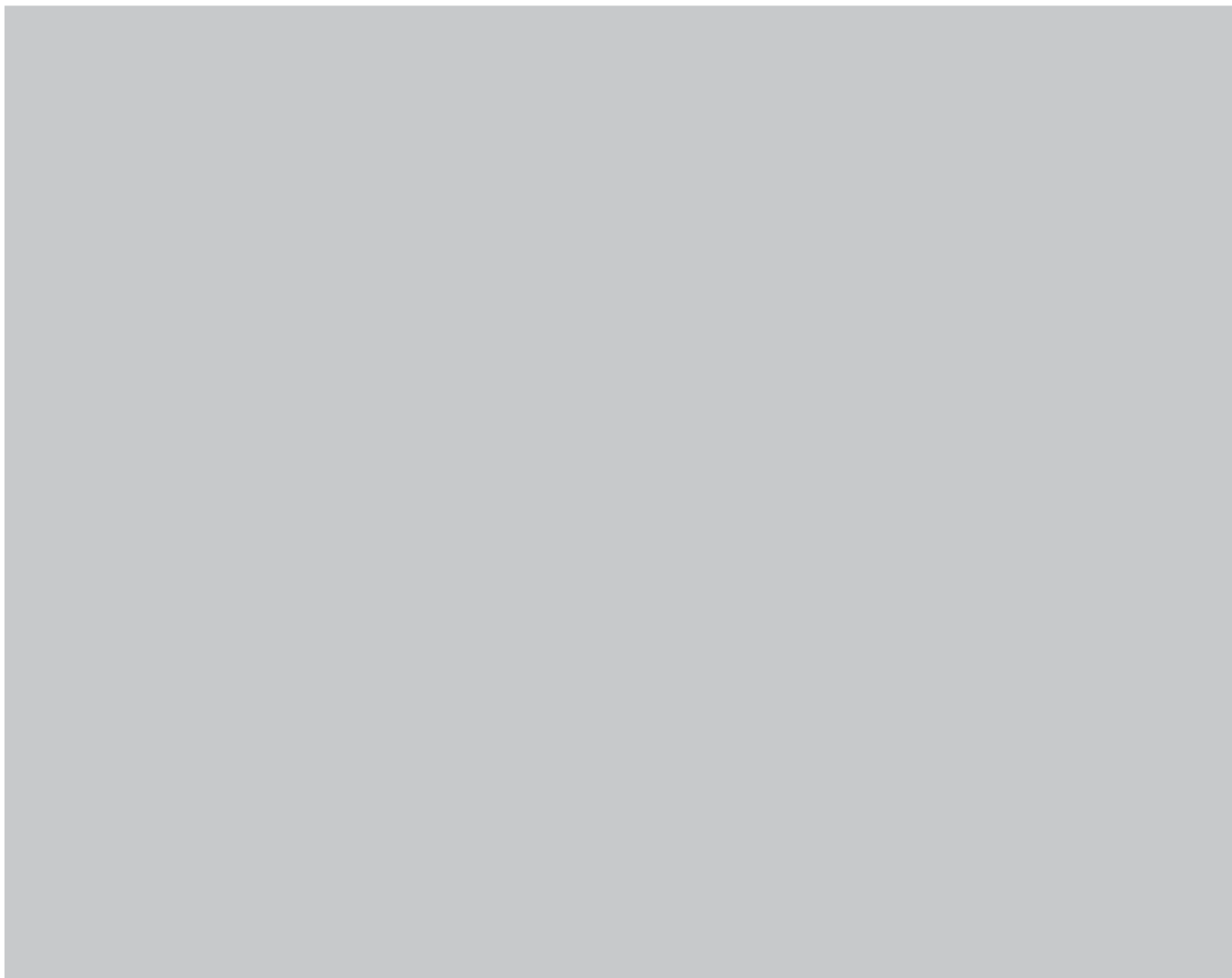
# オーケストラ紹介



## 宮前フィルハーモニー交響楽団

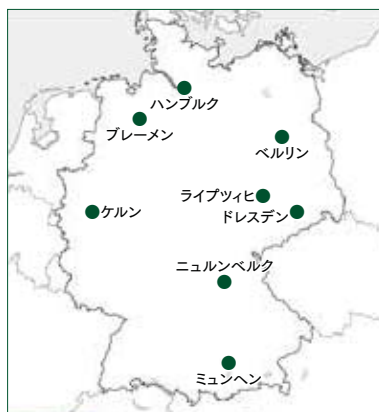
宮前区在住の指揮者守谷弘先生が、ヨーロッパのどこの街でも住民がアマチュア オーケストラを楽しんでいる姿に感銘を受け、「自分の住む街にもオーケストラを」と呼びかけて1991年5月に14人で誕生しました。それから21年。年2回の定期演奏会に加え、かわさき市民第九コンサート、那須町での水害復興のためのチャリティーコンサート、那須町第九コンサート、子供のための無料コンサート「音楽のおもちゃ箱」と幅広く活動して

います。メンバーは職業も年齢もさまざまですが、毎週日曜の午前中、ほとんどの団員が参加して熱心に練習しています。今年の6月に開催した第39回定期演奏会は、ホームグラウンドである宮前市民館で、チェロ奏者ベアンテ・ボーマン氏と二度目の共演を果たしました。25周年を迎える来年の演奏会に向け、準備を進めていますのでご期待ください。



## 「歓喜に寄す」の生まれた家

ドイツを代表する劇作家で詩人のシラー。人類愛を綴った「歓喜に寄す」は20代で作られた作品です。彼をよく知るべく、彼が過ごしたライプツィヒ、そして「歓喜に寄す」が創られたという彼の住まいに足を運びました。



ライプツィヒはバッハの時代から「音楽の町」として音楽界をリードし続けてきました。ゲヴァントハウス管弦楽団が1981年には結成され、メンデルスゾーンは1843年にドイツ初の音楽大学を創立しています。シューマンもワーグナーも、マーラーもこの地に住み、数多くの名曲を生み出しました。シラーの家はその町から少し外れ、リングと呼ばれる旧市街の北の郊外にあります。

ライプツィヒ中央駅からリングと呼ばれる旧市街を北に抜け、路面電車で7駅ほど乗ると、当時はゴース村と呼ばれていたこの農家の家に着きます。



シラーは25歳だった1785年に、熱心な読者の招待を受けて2階のこの部屋に5月から5か月滞在しました。少々床は傾いていますが、気持ちの良い「田舎暮らし」を満喫したようです。

もうひとつ。私たちの身近なところにシラーの詩があります。みなとみらい駅からクインズスクエアへと続くエスカレーターから見える壁面に書かれた詩をご存じでしょうか。あれも彼の作品。自然に息づく生命を綴った作品です。

どの作品も、時代を超えて私たちの心に響きます。



交響曲第九番4楽章Allegro assai パスのソロがはじめて歓喜のテーマを歌う部分



ここで創られた「歓喜に寄す」がベートーヴェンによって「歓喜の歌」になり不朽のものとなりました。



現在はドイツ最古の文学記念館として、シラーの資料が展示されています。

## 戦時下での日本初演

日本初演は1914年。第一次世界大戦の真っ只中でした。徳島県鳴門市の坂東俘虜収容所でのドイツ兵による第九演奏会でした。所長の陸軍歩兵大佐松江豊寿は、降伏したドイツ兵の心情を理解し、人道的に対応したといえます。そんななかで、ドイツ軍の軍楽隊の者を中心に芸術活動がなされ、2年半の収容生活で数十回の演奏会が、ときには徳島市内でも開催されていました。第九の演奏会では、歓喜の歌に、遠い祖国を想って泣き出すドイツ兵もいたといえます。

### かわさき市民第九に寄せて

戦後70年の今年、27回目の「かわさき市民第九演奏会」の日を迎えることができました。毎年同じ楽譜で演奏しながら、それでいて毎回違います。指揮者や合奏指導の先生方によっても、その時のメンバーによっても、また歌い、演奏する私たちの人生の折々によっても、大きく違うように思います。変わらないのは「人々はみな兄弟となる」というベートーヴェンの、人類の願いを謳いあげること。素晴らしいホールで、毎年開催できる大きな幸せを噛みしめながら、今年もまた謳いあげます。400人あまりの市民が参加するこの演奏会が、先細ることなく続いているという誇りを胸に。